

北海道大学 経済学部
第3年次 編(転)入学試験
第3年次 転部試験

平成31年度 専門科目 試験問題

試験期日：平成30年8月23日
試験時間：9時30分～11時00分

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は、

必須問題	2～3 ページ
選択問題 (経済学)	4～5 ページ
選択問題 (経営学)	6 ページ

である。
3. 必須問題は、問題Ⅰと問題Ⅱの2つからなっている。必ず両方に解答しなさい。
4. 選択問題は、出願時に選択した分野の問題に解答しなさい。
5. 受験番号、氏名、選択問題の分野は、監督員の指示に従って解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
6. 解答用紙は2枚配布される。必須問題、選択問題ごとに1枚の解答用紙を用いなさい。
7. 解答用紙に解答する際に、問題番号・記号があれば解答の前に必ず記入しなさい。
8. 解答用紙が不足した場合には挙手して監督員に連絡しなさい。
9. 試験場退出は試験開始30分が経過するまで認めない。

必須問題

問題Ⅰ．以下の（１）から（６）の全ての問題に答えなさい．

- （１）消費者の効用関数を $U(x, y) = x^2y$ とする．ここで、 x と y はそれぞれ X 財と Y 財の消費量を示す．予算制約式は $p_x x + p_y y \leq M$ で、 p_x と p_y はそれぞれ X 財と Y 財の価格、 M は所得を示す．このとき、効用最大となる X 財と Y 財の消費量を p_x 、 p_y 、および M の関数として表しなさい．
- （２）企業の生産関数を $Y = \sqrt{L}$ とする．ここで、 L は労働量、 Y は生産物の生産量を示す．企業の利潤は $\pi = pY - wL$ で、 p は生産物の価格、 w は賃金率を示す．このとき、利潤を最大にする労働量と生産物の生産量を p と w の関数として求めなさい．
- （３）財市場のみのマクロモデルで、 $Y = C + I + G$ 、 $C = 0.8(Y - T)$ 、 $T = I = 100$ 、 $G = 80$ とする．このとき、均衡の国民所得 Y と家計の消費支出 C を求めなさい．ここで、 Y は国民所得、 C は家計の消費支出、 T は租税、 I は企業の投資支出、 G は政府支出を示す．
- （４）時間の経過とともに「出現、発現」する、または実行されてから当初の原型をとどめないほどに変わってしまう競争優位を獲得するための戦略を何というか答えなさい．
- （５）企業や団体の従業員が自分の職務の範囲外の仕事をする「役割外行動」を何というか答えなさい．
- （６）内発的に動機づけられた行為に対して、外発的報酬が与えられた場合、やる気が低減する現象を何というか答えなさい．

問題Ⅱ．以下の（１）から（８）のうち4問を選択し、それぞれ5行程度で答えなさい．

- （１）ギッフェン財について、代替効果と所得効果を用いて簡潔に説明しなさい．
- （２）市場での需給調整過程の1つであるワルラス的調整過程を説明しなさい．

次に、以下の文の正誤を述べ、正しければその理由を述べ、誤っていれば反例を示しなさい。

「市場での均衡の数が1つのとき、この均衡は必ずワルラス的に安定である。」

- (3) クラウンディング・アウトについて説明しなさい。
- (4) フィリップス曲線について説明しなさい。
- (5) 顧客にとってのスイッチング・コストについて説明しなさい。
- (6) 経路依存性について説明しなさい。
- (7) ホーソン実験について説明しなさい。
- (8) 意思決定の最適化と満足化について説明しなさい。

選択問題（経済学）

問題Ⅰ，問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ．二つの生産要素の労働 L と資本 K を用いて生産を行う企業の生産関数が $F(L, K) = (LK)^{1/4}$ であるとする．また，生産物価格，賃金，資本レンタル料をそれぞれ， P ， w ， r とする．このとき，（１）から（４）の全ての問題に答えなさい．

- （１）この企業の利潤を最大にする各生産要素の投入量とそのときの生産量を求めなさい．
- （２）この企業の費用最小化問題を解いて，費用関数を求めなさい．
- （３）問い（２）で，シェパード命題が成立していることを示しなさい．
- （４）問い（２）で求めた費用関数を利用してこの企業の利潤を最大にする生産量を求め，それが問い（１）で求めた生産量と同じであることを示しなさい．

問題Ⅱ．以下の IS-LM モデルについて，（１）から（６）の全ての問題に答えなさい．

生産物市場の需給均衡式 $Y = C + I(r) + G$

貨幣市場の需給均衡式 $\frac{M}{P} = L(Y, r)$

ここで， Y は国民所得， C は家計の消費支出， I は企業の投資支出， G は政府支出， M は名目貨幣ストック， P は物価水準， r は利子率を示す．

- （１）企業の投資需要 $I(r)$ はなぜ利子率 r に依存するか，簡潔に説明しなさい．
- （２）貨幣需要 $L(Y, r)$ はなぜ利子率 r に依存するか，現金と債券の資産選択の観点から説明しなさい．
- （３）生産物市場と貨幣市場の需給均衡式から，IS 曲線と LM 曲線をどのように導出するか，図と数式を用いて説明しなさい．
- （４）IS 曲線と LM 曲線が標準的な形状であるとき，金融政策として実質マネー・サプライを増加させるケースを考える．このとき，IS 曲線と LM 曲

線のシフトを図示し、均衡の国民所得と利子率の変化を説明しなさい。

- (5) 金融政策として実質マネー・サプライを増加させるとき、国民所得が増加しないケースを1つ挙げなさい。このケースについて、どのような状況であるかを説明しなさい。
- (6) 問い(5)で挙げたケースにおいて、実質マネー・サプライを増加させるとき、IS 曲線と LM 曲線のシフトを図示し、均衡の国民所得と利子率の変化を説明しなさい。

選択問題（経営学）

問題Ⅰ，問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ．以下の全ての問いに答えなさい。

- （１）SCP モデルについて，その論理を説明しなさい。
- （２）VRIO モデルについて，その論理を説明しなさい。
- （３）「既存企業のパフォーマンスが高い業界」が存在するとしよう．いま企業 A が，この業界に参入するか否かを検討しているとする．では SCP モデルと VRIO モデルを用いた場合，この企業 A の参入行動について違いが生じるのだろうか．（１）と（２）において説明した論理を前提として，この問いに答えなさい。

問題Ⅱ．以下の【 】内の用語を全て用いて，組織構造のコンティンジェンシー理論について，詳しく説明しなさい．なお，使用した用語には下線を付しなさい。

【ワン・ベスト・ウェイ・アプローチ，状況，適合，組織成果，環境不確実性】